

この女の復讐は正しいのか？ 倍賞千恵子の冷たい演技に注目！

クラシック・シネマ

『霧の旗』

松本清張の小説を映画化した山田洋次唯一のサスペンス。怒りの炎を冷たく燃やす“氷の処女”を演じる倍賞千恵子は従来のイメージを覆します。彼女の哀れさと狡猾さが混ざった行動は100%肯定出来ない“恐ろしさ”。狙われる滝沢修と新珠三千代が可哀相になってきます。

全員、悪人！ これが昭和の都市銀行の実態だ！

クラシック・シネマ

『黒い画集 第二話 寒流』

見終わった後、確実に人間不信になるヘビーな清張映画。美女を巡って繰り上げられる醜い人間模様の中、会社から徹底的に苛められる主人公池部良。しかしその彼も善人ではないという人物描写は他にない冷酷さ。気が付くと登場人物全員に反感や嫌悪感しか覚えなくなります。

難所・鹿島槍で何が起こったのか？ 思わぬスケール感を持つ山岳サスペンス。

クラシック・シネマ

『黒い画集 ある遭難』

松本清張の短編を異才・石井輝男が脚色。時間軸を交錯させる展開と夏・冬2シーズンに渡って行なわれた登山シーンは素晴らしく、事件の真相が明らかになっていく終盤はサスペンスが高まって見応え充分。若き日の児玉清には注目です！

返還前の沖縄。 日本のやくざに戦い挑むウチナーの女傑・藤純子！

クラシック・シネマ

『日本女侠传 激斗 ひめゆり岬』

返還前の沖縄で長期ロケーションを敢行した『日本女侠传』最終作。沖縄が舞台なので藤純子はほぼ全編、アーミールックで顔には日焼けメイクを施しています。沖縄の人々を苦しめる日本のやくざに唐手とマシンガンで対抗。藤純子＝和服のイメージを覆す異色作になっています。

北海道で大ロケーション敢行！ これは藤純子ウエスタンだ！

クラシック・シネマ

『日本女侠传 真赤な度胸花』

北海道で大ロケーションを行なった『日本女侠传』第2弾。お話はほぼ西部劇で、任侠映画の匂いは希薄。和風カウガール姿で雄大な北海道の地で馬を駆る藤純子とはとにかくステキ！純子&健さんの芝居どころをじっくり捉える長廻し撮影など、見どころがてんこ盛り！